協働の地域づくり

～まちづくりパートナーシップモデル事業の事例から～

「協働」とは、地域と行政がともに考え、同じ目的のためにそれぞれの役割を分担し、ともに力を合わせて活動することです。

本町では、令和４年度から地域と行政が協働して、地域の課題解決や地域づくりなどに取り組む仕組みづくりに向け、「まちづくりパートナーシップモデル事業」を実施しています。今回はこの取り組みについて紹介するとともに、協働による地域づくりについて考えます。

人口減少下での地域づくり

現在、少子高齢化や人口減少が進行し、高齢者が安心して暮らせる環境整備が不可欠となる一方、地域づくりを担う若者層の流出により、地域づくり活動人口が減少しています。

一方、行政の役割も多様化、複雑化しており、これからは地域と行政職員が協働して地域づくりに取り組むことが重要となります。

本町の中長期的なまちづくりの指針となる小国町総合計画基本計画（令和元年度策定）には「協働の地域づくり」として、地区に町職員が出向き、情報収集のほか、地区の住民と課題解決に取り組むことが盛り込まれています。また、令和３年度に策定した過疎地域持続的発展計画では、様々な主体の関わりによって集落整備や集落機能の維持、保全を進めていくにあたり、これまで以上に地域と密着するなど行政も一体となった展開を図ることとし、「地域支援職員派遣制度」を検討し、行政内部における仕組みづくりを進めることが述べられています。

この「協働の地域づくり」を推進するため、令和３年度には各地域のサロンや地域づくり団体等へのヒアリングを実施し、地域の現状や実情、地域づくり活動を実施するうえでの課題等を整理しまし

地域支援職員派遣制度のイメージ図

た。また、令和４年度には「地域支援職員派遣事業」導入のためのモデル事業として「まちづくりパートナーシップモデル事業」を実施しました。

まちづくりパートナーシップモデル事業の取り組み

まちづくりパートナーシップモデル事業は、地域と行政がともにまちづくりのパートナーとして「協働のまちづくり」を推進するため、地域と行政のつなぎ役となるパートナー職員をモデル地域に配置するものです。

パートナー職員は地域住民と一緒に地域活動を盛り上げるほか、生活に身近な課題の解決策を考え、地域活動に役立つ情報を提供するなど多方面から地域づくりに参画します。

令和４年度はモデル地区として「北東部地区」を選定して、川西町の特定非営利活動法人きらりよしじまネットワーク事務局長の高橋由和氏をコーディネーターとした全５回のワークショップを実施し、地域住民17人とパートナー職員が参加しました。

４つのグループにわかれ、町の人口推移や高齢化率、財政力指数といったデータによって、現在の状況を把握し、地域に対する危機感の共有等を行い、なぜ協働が必要であるのかについて考えるとともに、地域課題の洗い出しを行いました。また、先進地である川西町吉島地区を視察し、活動組織の立ち上げまでの過程や、協働による住民主体の地域づくり、地域による人財育成等について学びました。ワークショップの最終回ではグループで整理した課題の解決につながる「地域でやってみたいこと」を共有し、そのために、どのように協働するのかについて話し合い、実現に向けた行動計画を作成しました。

▲まちづくりパートナーシップモデル事業　第１回ワークショップ

ワークショップ参加者からは「最初は何をすればいいのかわからないままスタートしましたが、講義を受けていくうちに、少しずつ着地点が見えるようになってきました。参加者が共通の認識をもって話し合うことは有意義でした」といった感想のほか、「子ども食堂をやってみたい」や「子どもたちが集まる場を作りたい」といった北東部地区で実践したい具体的な内容が出ました。

ワークショップ終了後には、参加者を中心に地域のコアメンバーを選出し、地域づくりや地域活動についての話し合いが続けられています。

北東部コミュニティ睦の活動

北東部地区で地域活動を行う「北東部コミュニティ睦」はまちづくりパートナーシップモデル事業のコアメンバー会議をきっかけとして立ち上がりました。

令和５年度は「北東部納涼盆踊り祭」の開催や全国火災予防運動に合わせた夜回りを実施しています。

盆踊り祭では、北東部地区の若者が中心となり、地域を巻き込みながら、活動しました。例えば、会場内に設置す

る灯籠の障子紙貼りを地域サロンに依頼したほか、小国高校木工部が竹灯籠を作製するなど年代や地域を問わず多くのかたが盆踊りに協力しました。

また、秋に実施した夜回りでは、北東部地区の子どもたちが拍子木を持って幸町などを練り歩き、火災予防の啓発を行いました。これは、地区のかたから「昔は夜回りをしていた」という話を聞き、それに興味を持った睦のメンバーが復活させたものです。

幸町に住む東海林テイ子さんは夜回りについて「小さな子どもたちが歩いているところを見て、様子が気になり一緒に歩きました。昭和40年代あたりは長期休みのたびに各地区でこういった活動が行われていました。最近はそういったこともなくなりましたが、久しぶりに子どもたちの夜回りする様子を見て、当時のことを思い出しました」と

①コアメンバーによる話し合い
②盆踊りサロンでの障子紙貼り作業
③保存会による踊りの指導
④地域と町職員によるやぐら組み
⑤地域の若者が出店を運営
⑥盆踊り（子どもの部）
⑦オリジナルポロシャツを作製・販売
⑧小国高校木工部による竹灯籠作り

北東部コミュニティ睦の活動における協働事例

〇北東部納涼盆踊り祭

- 小国高校木工部による竹灯籠の作製
- 大宮地区の地域サロンによる灯籠の障子紙貼り
- 地区内の移住者によるチラシのデザイン
- 地元大工、事業所によるやぐら組みや芳名板作成、配電等の協力
- 舟渡地区からやぐらを借用
- 町職員による開催案内文作成、予算組み立て等の伴走
- 地域住民による協賛金集め、参加の呼びかけ

〇夜回り

- 地区の消防団員の協力を得て実施
- 消防署小国分署から拍子木、法被を借用

感想を話してくださいました。

北東部コミュニティ睦代表の遠藤成晃さん（大宮）にこれまでの活動についてお話をうかがいました。「地域のコアメンバーでの話し合いの中から睦ができました。年代が近い人だけではなく、幅広い世代から仲間を集めており、『楽しいことがしたい』という思いで活動をしています。北東部地区のなかには育成会がない地区もあり、睦の活動が子どもたちの思い出づくりの受け皿にもなれるといいと考えています。

▲幸町を練り歩きを火災予防を呼びかける子どもたち

今年は春季全国火災予防運動に合わせた夜回りを実施予定ですし、昨年に引き続き盆踊りも実施したいと考えています。今後はもっと地域のかたに興味を持ってもらえるような団体になるよう、体制を整えていきたいです」

今後の事業展開

今年度は小坂町地区を対象にまちづくりパートナーシップモデル事業を実施しています。

小坂町地区では「地域の声」を聞くことに重点を置いており、12月には地区を対象とした説明会を実施し、各地区の駐在員のかたとパートナー職員の顔合わせが行われました。

今後、駐在員とパートナー職員による意見交換や課題の共有が行われ、令和6年度から本格的に事業が開始します。

事業の実施について本町会館館長である杉山利夫さん（小国小坂町）は「町職員が地域に入ることはとても良い取り組みだと思います。まだ始まったばかりですので、これからお互いによく話し合い、実情に合った形で取り組みが行われていくことを期待しています」とお話くださいました。

▲小坂町地区を対象としたまちづくりパートナーシップモデル事業説明会

協働の地域づくりに向けて

「協働の地域づくり」を進めるためには、その地域に合った協働の形を見つけることが重要です。ある地区で成功したやり方を他の地区に導入しようとしても、条件や地域の課題が異なるため、うまくいかないということが発生します。

現在、実施しているまちづくりパートナーシップモデル事業では、このようなミスマッチを防ぐため、地域とパートナー職員が話し合いながら、その実情に合った協働の形を模索しています。

町では今後も「地域支援職員派遣制度」の導入について検討を続け、協働の地域づくりを推進する事業に取り組むとともに、誰もが生き生きと幸せに生活できる「暮らしやすい」まちづくりを目指していきます。